

2021 / 09 / 15 光赤天連総会 質疑記録

会計報告：

(秋田谷) 会費を納める機会が無くなっているが、どの程度滞納しても大丈夫か。

(秋山) 納入の期限は6年と設定している。対面での開催も近々再開することを期待している。今後も対面が出来ない状況が続くのであれば次の事務局に対応をしてもらいたいと考えている。

推薦投票結果報告に対して：

(上塚) 所属機関で複数機関に所属するケースはどのように扱っているのか？

(野上) 本務の機関を基準とすることになっている。

(上塚) 名簿の上でも複数書かれているケースと一つのケースがあるので、扱いを考える必要があるのではないか。

(山田良透) 投票率に意味はあるのか？複数のコミュニティに入っていると重複して投票しないようにしている。そのため投票率が下がることもあるのではないか。

(渡部潤一) 複数のコミュニティに入られている場合には、どのように投票するかはそれぞれの見識に任されていると認識している。

(野上) 今後考えてこととする。

(栗田) 国立天文台から投票率が低いことを指摘された経緯もある。このような理由があるのであればその点も国立天文台に知らせた方が良いと思う。

事務局の交代：

(金田) 事務的な役割で大変なところは具体的に何が大変か？

(秋山) あくまで事務局の役割は会員管理やウェブの管理など事務的な部分に限られるが、光赤天連の元で走っている将来計画検討WGなどの事務も担当しており、ホームページ作成やファイル共有元の設定も担っていて、事務的な負担も増えている。

SPICA報告：

(長尾) SPICA の検討は宇宙物理学系に引き継がれるということだが、SPICAに関連する報告がなくなることで光赤天連での宇宙研の宇宙物理学系の活動が報告されなくなり、コミュニティとの連携が悪くなるのが懸念である。

(山村) 活動状況の報告をどのようにするのかは検討する。

データアーカイブWG活動報告：

(野上) 声明の採択に向けての投票を行う。結果は圧倒的に多数で賛成された。光赤天連の声明として出たあとはどのように用いるのか？

(古澤) WGの活動としてはとりまとめて一旦終わりとする。国立天文台でもデータアーカイブのWGが立ち上がって議論されているので、そちらにフィードバックするのに活用したい。

(野上) 声明としての発出に関しては運営委員会で議論して結論する。

次世代地上大型望遠鏡戦略WG活動報告：

(野上) 科研費が採択されなかったらどうするのか？

(栗田) MAORY の装置開発に初期から加わる観点では今回は最後の機会であると考えている。

(土居) 今後も第2期装置の開発などあるので、ELTへのアクセスについてはこれが入り口であり、今後の展開もあり得ると考えている。